

令和2年度 熊本外語専門学校 自己評価・学校関係者評価結果

委員構成

選任区分	所属等
高等学校関係者	元県立高等学校校長
企業関係者	関連企業の元役員
企業関係者	関連企業の元社員
卒業生	卒業生
保護者	卒業生保護者

第1回委員会：日 時 令和2年6月25日（木）10時開催

場 所 熊本外語専門学校 603 教室

出席者 評価委員5名 学校側4名

- 1 校長挨拶及び2020年度入学時からこれまでの経過状況報告
- 2 校舎及び授業見学（コロナ対策下の授業）
- 3 資料説明
- 4 質疑応答、感想、提言
- 5 評価返送のお願い
- 6 閉会



第2回委員会：日 時 令和2年11月19日（木）13時開催

場 所 熊本外語専門学校 603 教室

出席者 評価委員4名 学校側4名

- 1 事業計画の進捗状況
- 2 自己評価、委員評価の説明、審議
- 3 その他



第3回委員会：新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和3年3月に予定していた会議を中止し、資料を郵送し、それを基づいて評価依頼

学校評価の進め方

【学校関係者評価の実施方法】

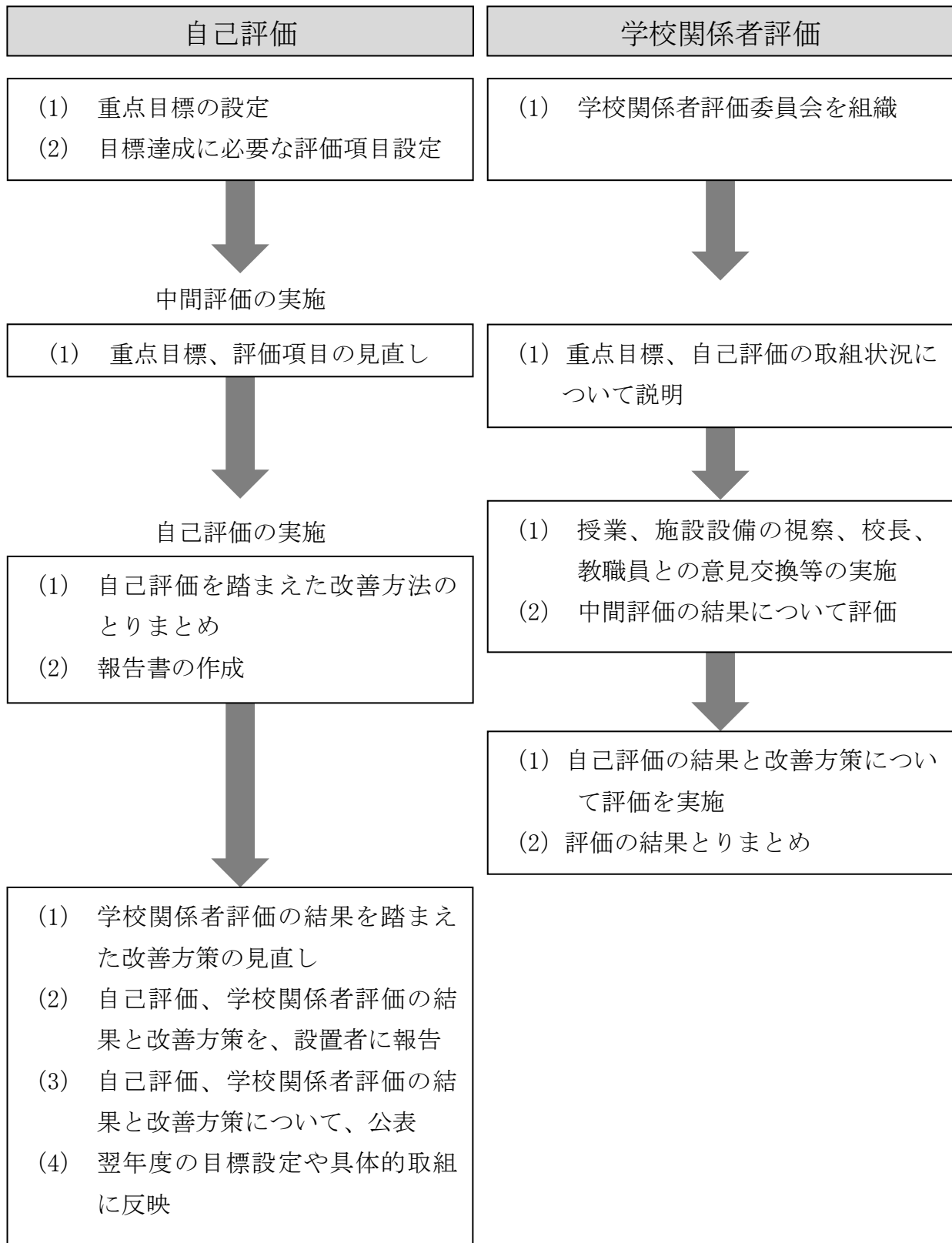
学校関係者評価の実施方法

①学校関係者委員会

学校と直接関係のある学校外の者を評価者とする学校関係者委員会を組織する。そのメンバーは、①卒業生、②保護者、③高等学校校長OB、④企業関係者、⑤企業関係者（もしくは財務専門家）の5名とする。尚、企業関係者の選定にあたっては、本校生の就職先で主に語学力を活かした職場を抱えている企業を選定する。

②学校関係者委員に、特に関わりのある重点目標、計画や自己評価、今後の取組方針などを説明し、学校見学や対話を通して教育活動、学校運営等に係る課題や今後の方向性等に助言をいただく。学校関係者委員会は、該当年度の学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか、自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか、学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか、学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうかなどを評価する。

③2019年度は、9月と3月の2回実施し、9月には学校見学も行う。2020年度以降は年2回実施する（6月、3月）。



1. 学校の教育目標

本校は、学校教育法に基づき学問の探求と技術の修得に情熱をもつ青少年に対し、外国語および日本語の教育を通して、常に時代の流れに対応し、国際化社会で活躍できる、有能にして礼節ある人材を養成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点目標

①語学力の向上を資格や就職進学に結び付けることをめざす。

1年次から英検、中検、TOEICなどの語学資格試験に挑戦させ、語学への積極姿勢を養う。

②出席率の向上と退学者の減少をめざす。

出席が学力向上及び生活習慣の形成につながるとの考えのもと、出席も単位取得の条件として生徒の出席を促す。また、毎年見られる退学者をいかに減らすことができるか有効な対策を考える。

③キャリア教育共済協同組合の「学生・生徒24時間共済」制度への加入

全学生を対象として学校内外で24時間体制で学生の事故や病気等に対して経済的負担の軽減をはかることができる。

令和2年度項目別自己評価及び、学校関係者評価は以下のような結果になりました。
 この自己評価及び、学校関係者評価に基づき、全ての項目において更に高い評価を得られるよう、一層努力して参ります。

3. 学校評価（学校自己評価・学校関係者評価）

評価の基準（適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1）

(1) 教育理念・目標	学校自己評価	学校関係者評価
評価項目		
①学校の理念・目的等が生徒、関係業界、保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	3.0
②各科の教育目標は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1	2.9
[課題] ①については、生徒への周知は十分為されていると考えるが、関係業界、保護者等への周知は不足していたことは否めない。 ※引き続き関係業界、進学先との連携を充実し、訪問等により最新の情報を得る。ニーズを把握する、語学力プラス業界に関連性の高い資格を取得する。		
[今後の改善方策] ①については、生徒は勿論のこと、関係業界、保護者等への周知徹底をはかりたい。その為にはそれらの人々との接触・連絡を密にすることが必要だと考える。		
②については、ニーズの把握に努め、必要なスキル（語学+α）修得を生徒に促すことが必要である。		

(2) 学校運営	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①学校運営は、目的に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画、体制等が策定されているか	4 (3) 2 1	3.0
②情報システム等による業務の効率化が図られているか	4 3 (2) 1	2.3
<p>[課題]</p> <p>②については、未だ十分に効率化が達成されておらず、見直すべき点が多い。</p> <p>※ I T 化等、業務の効率化についてはまだ改善余地がある。職員の意見を採り入れながら引き続き検討していく。</p>		/
<p>[今後の改善方策]</p> <p>②については、具体的にどのような点の効率化が遅れているか全職員で検討することで、問題点を明らかにし、その上でどのように効率化が進められるか確認する。また個人情報に関するデータを多く扱うため、データ管理の意識を更に高める必要がある。</p>		/
<p>毎月保護者に発送（郵送）している出席状況、行事日程など連絡事項をメールで送る方式に変えることは可能と思われる。その他 I T を利用しての業務の効率化はできるものから進めていきたい。</p>		/

(3) 教育活動	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1	3.2
②関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ等）が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1	2.2
③成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (3) 2 1	3.1
④人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 (3) 2 1	2.9
⑤教員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 (2) 1	2.1
[課題] ②についてはインターンシップ、職業体験が生徒自身の選択に任されているので、個人差が著しく生じている。⑤については学校のスタッフに十分な余裕がないために、行われていない。 ※インターンシップについて、現在学生自身の選択に任されており、学校側から積極的な推奨はしていない。参加を決めかねている学生にとっては、経験者の体験談を直接聞く機会やメリット・デメリット等の情報提供があれば、より参加しやすくなる。申し込みから研修終了までの流れが明確に示されることも参加への後押しになる。		
[今後の改善方策] ③については、既に実施している。②については、個人差が余り出すぎないように、バランスを考えて体験させることをめざす。⑤については、今後できるだけ能力開発の為の研修等への参加ができるよう努力していく。		
②について現在はコロナ禍の制約があるが学校側からも積極的に推奨していくことに努める。		
[改善済] GPAを2019年度より採用している。 ⑤について、日本語科、国際科ではベテラン教員による教授指導が経験の浅い教員に対して行われている。		

(4) 生徒指導	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①生徒の基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	4 3 ② 1	2.9
②生徒の安全管理のための取組等が行われているか	4 ③ 2 1	3.0
③進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1	2.9
④生徒・保護者からの相談体制が整備されているか	4 ③ 2 1	2.6
<p>[課題]</p> <p>①については、遅刻、欠席が目立つ生徒には各担任を中心に指導をしているが、高校時代から課題を抱えている学生が多く顕著な改善は見られなかった。②については防災訓練を行ったが、一部緊張感の欠けた生徒がいた。④については、主に各担任に生徒・保護者からの相談に対応してもらっているが、対応に苦慮する事案もあった。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、家庭との連携を強化し、指導を行う。①の自己評価が2から3に上がった理由は、スタッフの取り組みによって退学が改善してきているからである。②については、訓練により緊張感を持たせるように指導を徹底する。④については、担任だけではなく複数のスタッフでより良い対応ができるよう努める。</p>		

(5) 特別活動	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①クラブ活動等特別活動を奨励・支援しているか	4 3 (2) 1	1.4
②ボランティア活動を奨励・支援しているか	4 3 (2) 1	1.9
<p>[課題]</p> <p>①については、施設設備、時間的制約の観点から実施できていない。②については、奨励はしても支援できるところまでは至っていない。</p> <p>※語学を生かしたボランティアを中心に、引き続き学生への情報提供等、きっかけ作りをする。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、環境を整えば実施すべきだと考えているが、今のところ目途が立っていない。②については何らかの形で支援ができるよう努めたい。</p>		
<p>語学ボランティア活動ができる状況になれば積極的に参加を促していきたい。</p>		

(6) 学修成果	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①進学率や就職率の向上は図られているか	4 (3) 2 1	2.9
②資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1	2.9
③退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1	3.3
④卒業生への追跡調査を実施し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4 (3) 2 1	2.2
<p>[課題]</p> <p>①の進学については、希望する学生の大多数は進学できているが国公立など難易度の高い大学へのハードルは高い。②については、できるだけ積極的に資格試験に挑戦するよう指導しているが、期待通りの結果につながらないケースも見られる。③については、できるだけ生徒とのコンタクトに努め、早目に退学の因となるものを除くようにしているが退学に至ってしまう場合も毎年一定数ある。④については、一部の卒業生を除き追跡調査はできていない。</p> <p>※卒業生への追跡調査は、進学・就職先の実態を把握でき、離職率や離職理由等、学生が進路を決めるうえで大きな判断材料になる。まずは卒業生へのアンケート実施等から取り組む。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、できるだけ生徒が志望する大学等に進めるよう学力伸長に向けて努めたい。②については、1年次から資格の有用性を認識させやる気を出させてより積極的に資格試験に挑戦するよう指導したい。③については、出席との相関関係が強く見られることから、出席に問題が生じたらできるだけ早く面談等を通して原因の把握に努めたい。④については、追跡調査の体制を整えることに努める。④の卒業生へのアンケートはできるだけ早急に実施することを考えている。</p>		

(7) 生徒支援	学校自己	学校関係者
評価項目	評価	評価
①生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1	3.6
②生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1	3.0
③保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1	2.5
④学力的に遅れている生徒に支援はしているか	4 3 ② 1	2.8
<p>[課題]</p> <p>②については、年に1回一部学校負担でX線撮影を行っている。薬物乱用防止教育、H I V感染防止教育などは実施していない。③保護者との連携は何か問題を抱えている生徒の場合特に重要であり担任を中心に取り組んでいるが、十分な連携が取れない場合がある。④については、必要に応じて個別指導も行っている。</p> <p>※特待生や資格奨学金の制度は生徒のモチベーションを上げるためにも良い制度なので継続する。また、新しい修学支援制度についても積極的に生徒や保護者に伝える。感染症対策などに関しては現在一般的にもとても注目されている分野なので併せてH I Vや薬物に関する情報の提供や教育の機会を作ることによって以前までとは伝わり方が違う。</p> <p>※今後の状況によっては、特に留学生への情報提供、必要に応じてメンタルケア等も求められてくる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については国や地方自治体の支援制度をできるだけ活用していきたい。</p> <p>②について感染防止の観点から教職員も生徒も全員X線撮影を行うことを義務づける。また薬物乱用防止教育等もできるだけ実施できるよう努める。③については、保護者と連携なしでは問題の解決は難しいのでできるだけ密にコンタクトする機会を設けたい。④については、できるだけ能力に応じた個別指導の機会を増やしたい。①については必要な学生は奨学金も含め公的な支援を最大限に受けられるよう配慮する。</p> <p>コロナ禍に関連して、特に留学生への情報提供、メンタルケアは積極的に行っていく。</p>		
<p>[特記事項]</p> <p>英検2級取得者、TOEIC550点以上取得者、特待生入学者の授業料免除（1年次のみ10～40万円）。入学後資格取得者への奨学金（1万～10万円）</p>		

(8) 教育環境	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよ う整備されているか	4 3 ② 1	2.5
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等 について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	2.1
<p>[課題]</p> <p>①については、エレベーターや空調機器等施設・設備の一部に更新を必要とするものがある。②については、姉妹校（州立モンタナ大学・北京語言大学）との交流が十分できていない。</p> <p>※本校には、姉妹校（州立モンタナ大学、北京語言大学）があるのに、全くではないが交流ができていない。もっと海外研修などを取り入れる。</p> <p>※コロナ対策として、オンライン授業を早期に実施した。今後も教育環境のオンライン化やICT機器の活用の必要性は高まってくる。インターンシップ、海外研修について、今年度は実施が難しい面があるが、改善案にあるように、オンラインによる授業や交流が実現すれば、学びの幅も広がるのでぜひ検討する。</p> <p>※基本的な設備などの他に、オンラインによる授業やその他活動を強化することも今後さらに必要になってくる。また Wi-Fi に関しては、セキュリティや費用の関係上簡単には導入できないが、一部エリアから、等というように実験的に取り組んでみる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、できるだけ早急に取り組みたい。②については、インターンシップ、海外研修等を積極的に促し、姉妹校との交流も活発化していきたい。またオンラインによる授業や交流の可能性についても検討してみたい。</p>		
<p>現況下では留学生、研修生を送り出すことは難しいが、環境（特にコロナ）が改善してくれば積極的に取り組みたい。オンライン化の充実は今後とも強化していく。Wi-Fi に関しては、現在検討中である。</p>		

(9) 生徒募集	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①生徒募集は適性に行われているか	4 ③ 2 1	3.3
②生徒募集活動において、資格取得・就職情報等の情報は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1	3.0
<p>[課題]</p> <p>①の生徒募集については、できるだけ効率的に、県内を中心に、高校等訪問や説明会、進学情報誌、TVCM、タウン誌、オープンキャンパス、インターネット等を通じて行っている。また留学生の募集については、主に留学生派遣のエージェントを介して行っているが、現状は新型コロナの影響もあり、かなり厳しくなっている。</p> <p>※留学生数については、技能実習生制度の影響が出ているが、学校での学びを卒業後にどう生かせるのか、どのようなキャリアを積めるのか、実習生との違い、そのメリットを示し、魅力をアピールしていくことが求められる。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>オープンキャンパスに参加してもらった高校生等にいかに弊校の魅力、特性をアピールできるか最善策を求めていく必要がある。</p> <p>留学生募集については、新型コロナの影響を大きく受けているが、直接募集等エージェントを介さない方法にもチャレンジすることが必要である。</p>		
ベトナムについては、技能実習生一辺倒となり、留学生の確保は望み薄となっているので、その他の国の開拓の必要にせまられている。専門課程を出ればあるいは大学に進学すれば日本で就職活動することも可能となるので、その点をアピールしていく必要がある。		

(10) 財務	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか	4 ③ 2 1	3.1
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1	3.0
③財務について会計監査は適切に行われているか	④ 3 2 1	3.8
④財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	3.8
<p>[課題]</p> <p>①については収支バランスにおいて支出が収入を上まわっている状態が続いている。中長期的には、収支のバランスを取るために早急の対策が必要である。③、④についてはインターネットでの公開が既になされている。</p> <p>※生徒数が増加しているということでこのまま取り組みを続ける。留学生に関してはコロナが落ち着かない事には動きが少ないので、各国間の入国がスムーズになったときに備え準備の必要がある。またそれと同時にオンラインなどを活用した生徒の募集や設備を整えることでの外部からの施設利用も期待したい。教室の時間貸しなどについてはもっと積極的にPRする。折角の好立地を生かさない手はない。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、学生増を中心に収入の増大をはかることが必要だが、収入確保の為のその他の方法も取り入れることを検討する。</p>		
<p>具体的には好立地を利用して貸部屋による収入増を考えている。現状では稼働率はコロナの為に低下しているが。</p>		

(11) 法令遵守	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①法令・専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	4 (3) 2 1	3.4
②個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4 (3) 2 1	3.0
<p>[課題]</p> <p>①については、各スタッフの良識と判断に任されているが、できるだけ誤断をおかさないようお互いにチェックし合うことも必要である。</p>	/	
<p>[今後の改善方策]</p> <p>②については、これまでに個人情報流出による問題は発生していないが、データ管理等も含め個人情報の管理を更に徹底したい。その一つとして、生徒の個人情報を持ち出すことは厳禁という意識を全職員に徹底したい。</p>	/	

(12) 社会・地域貢献	学校自己 評価	学校関係者 評価
評価項目		
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1	2.6
②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 ② 1	2.0
③地域に対する公開講座・教育訓練の委託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1	2.3
<p>[課題]</p> <p>①については、部屋のレンタルを通じて貢献できると考える。③については公開講座は実施しているが教育訓練の受託は行っていない。</p> <p>※コンテストの実施による認知度向上はできないか。</p> <p>※部屋のレンタルを通じて貢献できる。多いに活用したい。</p> <p>※地域貢献の観点からいえば、ターゲットを若者以外に絞った公開講座の実施、例えばリタイア後の高齢者を対象にした英会話講座等を検討してもいいのではないか。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>①については、部屋のレンタルを積極的に進めたい。②については、支援まで行えるよう努めたい。③の教育訓練も可能な限り受け入れていく方向で検討したい。公開講座は受講者を増やすべく更に努力が必要である。</p>		
<p>たとえばボキャブラリーコンテストなど弊校の特色を活かしたコンテストなど検討していきたい。</p>		

(13) 国際交流	学校自己	学校関係者
評価項目	評価	評価
①留学生の受入・派遣について戦略を持っているか	4 3 ② 1	2.2
<p>[課題]</p> <p>留学生の受け入れは行っているが、言語や文化の違いによる様々な問題が発生している。海外姉妹校への派遣がこのところ進んでいない。</p> <p>※まずは校内での学生同士の交流促進にぜひ取り組む。交流が活発化すれば、語学学校としてひとつの魅力にもなるのではないか。</p> <p>※海外からの留学生の日本でのインターンシップは行われているか。卒業生の日本での就職への道が開かれると、留学生も増えるのでは。</p>		
<p>[今後の改善方策]</p> <p>留学生を受け入れることは、文化・言語・考え方などの違いによって相当ストレスとなるものであるが、その難しさを超えないことには真の国際交流も国際理解も進まないだろう。要はお互いが違いを認めあった上でいかに協調、共生できるかの道を探すことが必要となる。現在アメリカモンタナ州の州立モンタナ大学及び中国の北京語言大学と姉妹提携をしているが、積極的に留学生派遣も進めていきたい。ただコロナ禍の現況では、実現の見通しは立たない。またオンラインを活用した交流の可能性を検討していきたい。</p>		
<p>海外からの留学生のインターンシップは行う方向で考えているが、コロナ禍の現況下では容易ではない。</p>		

I 重点目標について

1. 重点目標①について

●資格試験対策に力を入れられており、今後さらに資格取得率を伸ばしていくこと、さらにそれを生かせる企業への就職、進学の実績を示していくことで、後に続く学生にもモチベーションを持たせ、進路目標までの道筋を明確にすることが重要だと思います。

●語学力の向上を資格や就職進学に結び付けることをめざす。資格試験を多くの生徒が受ける予定だとの事で意識の改善がされているように思う。コロナ禍で試験自体の開催が危ぶまれる中で少しでも試験を受ける機会を増やしたり環境を整えたりしてほしい。特に今年度以降も就職は特に厳しくなると思うので生徒側が持つ危機感と学校側の重点目標を上手にリンクできれば更なる意識の向上につながるのではないかと思う。

●大学と違って、2年間という短い期間での資格試験に挑戦するわけなので、積極的に取り組まないと脱落する子供達ばかりになると思う。

●能力別編成などの取り組みができないか。

●コロナ禍において試験の開催自体も難しくなっている状況にある為、受験者の安全に配慮しつつも安心して受験が出来るよう情報の発信と環境の整備を行ってほしい。特に観光、航空等の業界は想像していたよりも大きなダメージを負うことになっている為、就職活動に有利になる為の資格取得と共に、自身のスキル向上の為の資格取得の意識も同時に持てるよう指導してほしい。

●各生徒の目指す就職先、進学先に必要とされるであろう各資格のレベルの提示はされていると思いますが、受験率が低いTOEIC等は引き続き有効性を周知し、まずは受験率を上げることだと思います。

●能力別編成について、やや困難であるとのことであったが、教材の作成等はできるのではないか。2級は高卒で当たり前として準1級への手当てを増やす方がいいように思います。

●TOEIC は、有効期間があるので生徒にはマイナス的に考えてしまう。英検も有効期間になるような話も聞きましたが、そのような情報はありますか？

●熊本においては新型コロナウイルスの影響も落ち着いてきているが、資格試験、就活セミナーの開催などはコロナ前と状況が大きく変わっている。引き続き生徒たちに情報の発信を取り組んでいただきたい。今後も厳しい状況が続く就職活動に有利になる為の資格取得と共に、自身のスキル向上の為の資格取得の意識も同時に持てるよう指導してほしい。一部でも就職先の公表は難しいのか。

●就活内容、特に空港内での仕事については、TOEIC はよく資格に書かれているように思います。学校の方での取り組みを。

●コロナ禍の中、努力しておられる。

2. 重点目標②について

●昨年度の退学率はここ 10 年でも最低水準ですので、このまま減少傾向を維持していただければと思います。今年度はコロナの影響で就職や留学等、先行きが見通せない状況でもあり、学生のモチベーション維持、不安軽減のため学業面だけでなく、精神面でのフォローも必要になってくるかと思えます。

●出席率の向上と退学者の減少を目指す対策の結果が出ているのかと思われる。コロナの影響で急遽取り組んだりリモート授業などがあることで通学に抵抗がある生徒をつなぎとめ、更に退学者を減らすことなども検討できるのではないかと。ただ技術的、人的な面での負担は大きくなると思うので可能な範囲で取り組めれば、と期待したいです。

●なぜ退学者が出るのか。それにつながる元があると思うので、そこからだと思います。

●退学者の減少はかなりうまくいっている。

●退学率の減少が素晴らしい。

●退学率の改善は何か具体的な対策をとられたのでしょうか。様々な取り組みの結果だと思いますので、現状を引き続き維持していただければと思います。

●コロナ対策として取り組んだりリモート授業等を行うことで生徒の出席率、退学率ともにコロナ前の水準を保てたのではないかと。刻々と状況が変化する中で次々と対応することが出てくると思うが引き続き生徒が学校に来やすくなる施策、来なくなる場所づくりを作り上げて欲しい。

●新型コロナウイルスの影響がある中で退学者の割合が昨年度と比べて低下しており、出席率もキープ出来ていることはとても良い傾向だと思う。引き続き状況の変化に対応しながら生徒たちにとって安全で魅力的な学校であって欲しい。個人的に、この状況で退学を選択する生徒の退学理由がどのようなものなのか興味がある。

●退学者の減少に努力している。

3. 重点目標③について

●事故や病気等、保険関係に対する重要性を学生時代から知ることは重要。さらにコロナの影響で生徒や保護者も自身の健康、安全について意識が高まっていると思う。今後も継続的に安全や健康などについて情報の提供や啓もうを行ってほしい。

- 制度活用が諸活動に不可欠と思います。
- 保護者からしたら助かります。
- 一過性の物ではなく継続的に安全や健康などについて意識を保てればと期待します。
- 昨年度同様、学生自身のリスク軽減、安心安全の保障面で有用であればよいと思います。

II 各評価項目について

1. 教育理念、目的、人材育成像

- 引き続き関係業界、進学先との連携を充実し、訪問等により最新の情報を得たり、ニーズを把握すること、語学力プラス業界に関連性の高い資格を取得することも重視されていくとよいのではないのでしょうか。
- コロナの影響で求められる人材がガラリと変わった印象です。軸になる教育理念を保ちつつ、新しく求められる人材のニーズをつかみ、生徒と共有しつつ国際社会においても求められる人事あゆみの育成をしてほしい。
- 義務教育と違い、生徒・保護者等への周知徹底は難しいと思います。しかし、そこを改善出来れば難しくはないかもしれない。連絡を密にすることが必要。
- 関係業界、保護者等への周知は不足していた。関係業界、保護者等との接触・連絡を密にする具体的な行動計画はあるのですか？
- インターンは企業とのマッチングに必要である。コンソーシアムへの参加はできないものか。
- 民間検定の活用化は、今後とも進むものと思います。TOEIC などの受験も負担を軽減するなどして、受験を奨励してもらいたい。
- ②について、関係業界、進学先との定期的な情報交換等は有効かと思いますが、現時点でどれくらいの交流、つながりを持たれているのか気になりました。また、各企業個別のニーズを把握することは大切ですが、その業種全体の現状、今後の見通しなどを知るために、各分野毎に専門家を特別講師に招くなども検討されてはいかがでしょうか。
- コロナ禍において求められる人材にも変化が出てきていると思うので基本となる理念は維持しつつ、社会の流れも取り込みながら人材育成をして欲しい。観光業界に対し、生徒、保護者、入学を希望する生徒等みな一様に不安を感じていると思うのでその不安を少しでも払しょくできるような光を提示してあげて欲しい。
- 今後の世の中の流れについて生徒たちと状況を共有しながら必要な資格、語学、スキルの獲得を促して欲しい。

●入学者が増加しており、認知度が高まっている。

2. 学校運営

●生徒の検温等も機材を導入することで人的な負担が軽減されたのではないかと思う。引き続き効率化の為に IT 化が必要な業務を洗い出し少しずつでも改善されればと思う。民間の企業でも LINE や SNS 等を業務に利用する機会も増えてきているので変えられる部分から変えて行くことも今後必要とされるのではないか。リモート授業の取入れなどがその一つだったとも思う。ただ、情報の管理など安全性とのバランスを取る必要がある為一足飛びにチャレンジする必要もないか。

●セキュリティに気を配りつつ IT 化が比較的簡単な部分から試験的に始めてみるのも良いのではないか。

●IT 化等は改善余地があり、慎重にすべきかと思います。

●カリキュラム等は学生の資格取得からしても効果を上げている。

●オンライン授業とまではいかなくとも、授業内容を記録して、都合の良い時に復習できるようにする。まずは音声だけでも良い。

●業務効率化のためのソフト等は数多くあると思うので、それを選定し続けるための部置（担当）を設けることも必要かと思います。

●WiFi 化については、職員（校務）と分離することがセキュリティ上不可欠。学生用にはキャリアの WiFi を使用すると維持が安くなると思いました。

●タブレット導入月 8,000 円払い、家庭的に非常に厳しい。デジタル教科書になれば、他の学校に遅れないように常に調べておく必要あり。

●情報の過年度との比較も必要ではないか。検定・資格の受験体制が望まれる。

●課題の抽出を終わらせることを目標にしたら良いと思います。

●生徒、保護者、学校、企業が求めるものがガラリと変わりつつある状態にある今、この先を見据えつつ、各方面から求められるものを一から探っていくタイミングではないかと思う。休校の解除のタイミングやリモート授業の取入れなど世の中のニーズに素早く対応できたことは素晴らしいと思う。

●IT 化等、業務の効率化についてはまだ改善の余地があるようですので、職員の意見を取り入れながら、引き続き検討していただければと思います。

3. 教育活動

●インターンシップについて、学生自身の選択に任されているとのことですが、学校側から積極的な推奨はされていないのでしょうか。参加を決めかねている学生にとっては、経験者の体験談を直接聞く機会やメリット・デメリット等の情報提供があれば、より参加しやすくなると思います。申し込みから研修終了までの流れが明確に示されることも参加への後押しになるかと思います。

●コロナ禍でインターンシップの機会が無くなってしまったことが残念でならない。GPAという新しい成績評価の仕組みを取り入れたことは外部に対しても客観的に生徒の成績を觀てもらえるので良い試みだと思う。特に語学を必要とする外資系等へのアピールなど新しい展望も期待できるのではないか。

●インターンシップは生徒個人の差がかなり出てくる。個人的な選択ではなく、学校での選択に力を入れることが今後の課題の一つ。

●昨年度からGPAを採り入れているので、改善方策には採り入れ済とするべき。

●インターンシップが必要。

●OB・OGの活用も役に立つと思います。

●インターンシップについては、先日のお話にもあったように、あくまで学生が自主的に参加するものでよいと思います。学校側・企業側双方にメリットがあるものにするためにも、事前準備・指導を充実させ、学生が強い意志を持って参加できる環境を整えることも必要かと思います。

●企業としても、インターンシップを受け入れることに対する金銭的な余裕や安全対策の整備が整いにくく引き続き受け入れが困難な状況にあると思う。その中でもインターンを受け入れる企業もあるはずなので、学校からの積極的な情報提供や推奨等も行ってもらいたい。このタイミングでインターンに参加出来る事は生徒にとってもとてもメリットになると思う。

●今までに行われたインターンシップの例と、それについての参加学生の感想（できればインターン先企業の感想も含む）をまとめて、今後の参考資料とする。

●インターンやボランティア等は、増やすことが望まれる。

●インターンシップは個人差がかなりあります。それによって就職も差があるように思えます。もっと生徒自身インターンシップに活発に取り組んでほしいです。

4. 生徒指導等

●生活習慣などは本人だけではなく家庭の問題等もある為、どの程度踏み込むのか、など扱いが難しいケースもあると思う。長く改善されていないことに関しては本人が一番自覚しているはずなので、話を聞きながら気長に対応する必要があるケースもあるのか。

具体的にどのようなケースがあるのか、どのように指導しているのか可能な範囲で知りたいとも思う。

家庭との連携、の部分もどのようなスタイルにすれば連携がスムーズに行くのか、IT等の技術導入も含め検討してみるのはどうなのか。

防災訓練などはどこか他人ごとだと思ってしまうこともあるはずなので自分事として考えられる機会が出来れば必ずしも避難訓練等でなくても良いのではないかと思う。

●退学者が減り、出席率も維持できていることは取り組みの成果が出てきているという事だと思う。引き続き生徒と話し、家庭と連携を取りながら指導、支援をして欲しい。

防災についてもコロナ禍において求められるものが変化しているはずである。シチュエーションも火事だけではなく地震やその他災害に対しての安全について情報を与える時間が合っても良いのではないか。

●遅刻、欠席が目立つ生徒は、高校時代からの課題になるでしょう。しかし大学などと違い、この学校では先生方の指導もあり、退学者が減少していると思います。生徒にとっては、この課題も大きいと思います。担任だけでなく、こういう私たち評価委員と対応して話すのも心のケアかと思います。

●退学者も減っており十分に取組みられている。

●保護者との連携を強めるため、スマホを使うのは良いアイデアだと思います。

●今後コロナの見通しが見えない中、卒業後の進路について不安を抱えている学生もいるかと思います。やはり全学生に対する定期的な個別面談等、日頃から生徒が相談しやすい環境を作ってあげることが必要かと思います。特に航空、旅行関連に的を絞って入学した学生については、今後進路変更せざるを得ないケースが出て来る可能性もあり、学校側が様々な選択肢を提案するなど細かなフォローが求められてくると思います。

●退学者も減っており、適正だと思います。

●退学者が減っていることを聞いて、いいことだと思います。

●大変努力されている。

●①の自己評価が2から3に上がっている。しかし課題には昨年と同じ記載になっている。上昇した理由を記載すべきでは。例えば退学率の減少。

●義務教育ではないので、指導方針にはかなりのメリットがある。

●休業などがあり生徒自身が家庭学習をしなければならないという事態は学校側にとっても大変な状況だったのではないかと思う。リモート授業の取入れや、今まで以上に家庭との連絡等の必要が出てきているのではないか。また家庭もそれを望んでいるところが多くあると思う。コロナなどに対する体調管理などと共に、家庭との連携を密にとれる仕組みを強化してほしい。また、留学生、日本語コースの生徒へのコロナや行政支援などの情報を意識して伝えてほしい。

●相談体制については、月に1度の専門相談員の配置や相談窓口の設置など、担任だけに負荷がかからない工夫も必要ではないでしょうか。全学生に対する定期的な個別面談も有効かと思います。

5. 特別活動

●コロナ禍において、複数人が集まり活動することは生徒を預かっている立場として奨励、支援することは難しいと思う。

今後、人が集まる事に対しての制限が解かれる流れになった際には生徒主導の活動に対して、目的、成果、改善案等のレポート提出を前提として生徒立案の特別活動などに対して予算を立てることは出来ないのか。施設設備、時間的な制約により定期的に継続できる活動が難しいと思われるのである程度単発的にでも生徒発案の活動を促し『やらなければ損。使わなければ損』という状況を作り出すことは出来ないものか。

ボランティアに関しては、語学ボランティアに捉われることなく令和2年豪雨災害等があったこともありボランティア活動に参加しやすい環境にあったと思う。あくまでも参加は自主的と言う形ででも県南のボランティアに参加を促すこともできたのではないか。

●制限がありながらも少しずつ人の集まりにないしての規制が緩くなってきている状況のなかで今後、どのような形でどのようなことが出来るのか、を検討する時間が生徒、教師双方に合っても良いのではないか。

サークルの様な形にして、英会話、テスト対策、国際交流などの自主的な集まりにして教師がサポートする、等の形が出来上がれば学校としても価値が上がるのではないか。それに対して予算が付けばさらに活動しやすくなるのか。

ボランティアにしてもサークル活動の一環として組み込めば興味のある生徒の参加のハードルも下がるのではないか。

●語学を生かしたボランティアを中心に、引き続き学生への情報提供等、きっかけ作りをされるとよいと思います。

●クラブ活動、ボランティアなどは現状行うことは難しい。コロナが落ち着く頃に向けて今の段階から情報を提供するなど準備の期間に出来たらよいのか。いつでもできる時にはなかなか腰が重いが、出来ない状態の今だからこそ色々な活動に対して興味を持ってもらい、近い将来の準備期間にしてもらいたい。オンラインで取り組むことが出来る活動などはあるのだろうか。

●学生の生活状況からは、なかなか難しいように思う。

●ボランティア活動も企画すると学校の宣伝になると思います。

●ボランティアは、大学生などとの共同を考えるといいと思う。

●ボランティアとなると、今の子供たちは行動に移さないのが現状だと思います。この世の中でさえ難しいでしょう。

6. 学修成果

●観光、旅行、航空業界は想定している以上に厳しい状況にある中で、就職組はかなり厳しい状況に置かれると思う。社会的な状況改善を期待しつつ、可能な限り生徒の希望に沿える就職先や目先ではなく、1、2年後を想定して進学、自身のスキルアップの機会などの提案を柔軟に提案してほしい。

資格を取得しないことは損、退学することは損、という現実を伝えながら、その上で、改めて何をしたいのか、という事を考えてもらう時期になるのではないかな。

またこのタイミングでの卒業生の調査はとても意義がある事ではないかと思う。教科書に載るであろうこの1年に集められるデータは今後とても重要なものになると思う。

●コロナ禍における現状で観光業をメインにする学校の就職率がある程度下がるのは仕方のない事かと思う。それよりもその状況下で就職を勝ち取った生徒がいることが大切ではないか。旅行業に就けたのかそれ以外に変更した結果の就職だったのか気になる。重点目標①でも書いたが、就職先についてある程度ボカシた状態ででも公表することが出来ないのか。

進学率は上昇し、国公立にも合格者が出ているようなので学校の取り組みの成果が出ているのではないかな。資格は難易度の高い資格の受験率が上がっているようなので現2年生が積極的なのか。個人によって資格に対する価値観が違うようなので資格の優位性を引き続き生徒たちに伝えて欲しい。進学、就職する前のこの時間がチャンスだ、と。

●進学率、就職率とも数字だけ見ると低くなっているようですが、最終的には上がる見込みがあるのか、詳細が分からないため、前回と同じ評価にさせていただきました。特に就職は、コロナの影響が出ているのであれば、今後も学校側のフォローが求められてくると思います。資格取得率については、英検の合格者数が前回と同じですが、変更はなかったのでしょうか。TOEICの受験率が伸びていないようですので、引き続き必要性を周知していくことが必要かと思います。

●現状はうまくいっていると思う。卒業生の活用によるインターン制などに取り組んでほしい。

●能力別編成の取り組みは良いと思います。卒業生へのアンケート、分析は是非実施していただければと思います。

●資格等の経年変化や過年度との比較は学生に示すといいと思います。

●努力されている。

●2年間という短い期間での資格、かなりハードであり個人差が出るだろう。

- 進学や、資格試験なども先が見えない状態の為、生徒も不安になっていると思う。目の前の目標がなくなることでモチベーションを切らさないように各自で課題を持って取り組む何かがあればいいと思う。学校内での試験は評価なのか。また、モチベーションを保つためにも、OBや先輩などの資格取得、進学、就職などについての情報共有などの機会があれば目標になり良いのではないかな。
- 昨年度退学率が低いのは何か具体的な対策をとられたのでしょうか。卒業生への追跡調査は、進学・就職先の実態を把握でき、離職率や離職理由等、学生が進路を決めるうえで大きな判断材料になると思います。まずは卒業生へのアンケート実施等から取り組まれてはいかがでしょうか。

7. 生徒支援

- 経済的な支援については、新制度が活用され、利用率も大きく伸びており、体制が整っていると思います。健康管理について、今年度はコロナ対策も求められますが、三密を避ける取り組みとしては現状適切に対応されていると思います。今後の現状によっては、特に留学生への情報提供、必要に応じてメンタルケア等も求められてくると思います。
- 特待生や資格奨学金の制度は生徒のモチベーションを上げるためにも良い制度だと思うので継続してほしい。また新しい就学支援制度についても積極的に生徒や保護者へ伝えてほしい。感染症対策などに関しては現在一般的にもとても注目されている分野だと思うので、併せてHIVや薬物に関する情報の提供や教育の機会を作ることで以前までとは伝わり方が違うと思う。生徒の支援については、今までとは違ったりリモートでのアプローチが可能になったことで支援の幅も広がるのではないかな。
- X線検査は子供達には必要な事です。よければ薬物乱用、HIV感染教育は、取り入れてほしいです。家庭では絶対できない教育です。
- かなり取り組んでおられる。
- 留学生にアルバイトがなくなっている状態でメンタル的に非常にきつく、留学生にどう対応しているのか詳しく聞きたい。
- 授業料免除の制度を見直してはと思います。やや高めの英検準1級、TOEIC600に上げてはどうでしょう。
- 健康管理について、前回同様コロナ対策、必要に応じて学生へのメンタルケア等が求められてくると思います。
- 能力別編成なども考えると、出席率は向上するのではないかな。
- 薬物乱用、HIV感染教育は、ぜひ取り組んでほしいです。
- 自粛期間が長く続いたこともあり、HIVや薬物に関する改めて情報の提供や教

育の機会を作る必要があるのではないか。

生徒の健康管理や保護者との連携なども、対面での面談等、密なコンタクトも必要だと思うが、少し気になる事、ちょっとしたことを気軽に尋ねられるチャットのような窓口があれば細かな疑問や不安などもキャッチすることが出来るようになるのではないか。

特待生や資格奨学金の制度は生徒のモチベーションの為にも継続してほしい。

留学生への非常時や日常の情報提供は積極的に行ってほしい。

8. 教育環境

●スマートフォンの普及、通信技術のアップデートなど社会のスピードを把握しつつ、授業のオンライン化やWi-Fiの導入など検証しながら部分的にでも進めていければよいと思う。

企業へのインターンシップや海外研修への従来のような形での参加、実施は難しくなっているが、オンラインを利用しつつ新しい形を限定的にでも始められないか。

在宅勤務が注目されている中で例えば会議へのオンラインでの参加や意見交換等今だから出来るインターンシップは実現できないか。

●引き続き、授業のオンライン化やWi-Fiの導入など検証しながら部分的にでも進めていければよいと思う。

オンラインを利用したインターンシップ等を取り入れている企業もある様なので、新しい形の研修や姉妹校との交流などをこの機会に試してもらいたい。

●姉妹校との交流を活発にできれば、メリット的にはかなり大きいと思います。

●学校での自学自習の場、機器の充実を提案したい。

●タブレット導入を検討されているとのことですが、それが授業においてどれほど活用されるのか、本当に有益なのか、経済面から考えても十分な検証が必要だと思います。

●コロナ以降、留学の補助も必要だと思います。

●姉妹校とのオンラインが、時差がありうまくできない状況のようですが、姉妹校にかかわらず、別の国でのオンラインはできませんか？

●ITの設備による滞留時間増が望まれる。DVDなどの整備も学習者の関心を高める。

●この学校には、姉妹校（州立モンタナ大学・北京語言大学）があるのに、全くではないが交流ができていない。もっと海外研修などをとり入れてほしい。

●基本的な設備などの他に、オンラインによる授業やその他活動を強化することも今後さらに必要になってくると思う。またWi-Fiに関しては、セキュリティや費用の関係上簡単には導入できないとのことだが、一部エリアからなど実験的に取り組んでみるのも良いのではないかと思う。

●コロナ対策として、オンライン授業を早期に実施されていますが、今後も教育環境のオンライン化やICT機器の活用の必要性は高まってくるかと思えます。インターシップ、海外研修について、今年度は実施が難しい面があるかと思えますが、改善案にあるように、オンラインによる授業や交流が実現すれば、学びの幅も広がるのでぜひ検討していただければと思います。

9. 生徒募集

●旅行、観光、航空業界が大きなダメージを受ける中で、在 학생徒、入学を希望する高校生などが極端に少なくなっているわけではない、という話が大変興味深かった。社会的にはどう考えても先の明るい業界ではない、と思いがちだが、その現実以上に業界に対するイメージが良い、という事なのか。もしそうであれば、その光の部分を取り上げて生徒、保護者、関係者の安心につながるような見せ方が出来れば入学の希望者も増えるのではないか。もちろん現実とのバランスも大切だが。

留学生に関しては引き続き入国が難しいだけに急激な増加は現実的ではないと思う。この先コロナの影響が無くなる(薄まる)タイミングで反動的に外へ出る機運が高まってきたときに備え魅力の発掘、情報の発信を続けて欲しい。

現在留学生を受け入れている国、地域以外へのアプローチも様々なチャンネルでチャレンジしてほしい。

●11月の会の際に伺ったコロナ禍において入学を希望する高校生などが極端に少なくなっているわけではない、という状況がまだまだ変わっていない事を期待する。

未だに先の見えない業界で企業が既存の業態だけではなく別業態にて生き残りをかけている現在、改めて多岐にわたった経験を持つ人材が求められている。学生に置いても旅行、観光をメインにしつつもそれ以外の経験が出来る可能性がある、という部分を伝えることが出来れば今までとは違った層の生徒たちが興味をもつきっかけにもなるのではないか。

留学生に関しては入国が可能になるタイミングを見極めながら情報発信を継続する必要があると思う。緊急事態宣言の影響で実習生が苦境に立たされている等の話もある中で、緊急時における留学生としてのメリットなどが無いのか?もしあるとすればそれをどのようにして伝えることが出来るのか。

新しいアプローチでの留学生獲得も可能なのではないか。

●留学生数については、技能実習生制度の影響が出ているようですが、学校での学びを卒業後にどう生かせるのか、どのようなキャリアを積めるのか、実習生との違い、そのメリットを示し、魅力をアピールしていくことが求められると思います。

●説明会、オープンキャンパス等と共にテレビ CM 等を流していることも安心感に繋がる生徒募集活動の一つだと思う。急に先が見えなくなったことで高校や進学を希望する生徒たちも目標が持ちにくくなっていると思う。新しい価値観や未来など少しでも明るいものを見せられるような募集ができればと思う。国内だけではなく、世界中で同じタイミングで起きている事象だけに国際的な感覚を身に着けることができる御校は、生徒にとっても魅力的な進学先になるのではないかと個人的には思っている。

●ベトナム、ネパールにかかわらず色々な国からの留学生が来てくれれば、もっと深い交流ができるはず。

●工夫されています。

●留学生については技能実習制度の影響で厳しい状況が続くことが予想され、新規開拓も必要かと思われませんが、それ以上に国内での生徒募集に引き続き力を入れ、入学者数の増加を維持していただければと思います。

●入学生の増加もうまくいっている。HPの充実・工夫が望まれる。

●留学生については、技能実習生に影響とありますが、技能の方にもベトナムは影響しています。ベトナム確保は望み薄です。

10. 財務

●生徒数が増加しているということでこのまま取り組みを続けてほしい。オンライン授業などで活用した設備、ノウハウを生徒募集や施設紹介などに活かしてほしい。

留学生の入学者数が減少している分を施設の利用や外部受講の受け入れなどで補う事は出来るのか。

オンラインでの外部受講は実施可能なのか？時勢に合っており場所的な制限も無い為潜在的な受講希望者もいるのではないか。

●充実している。

●安定している。Kokei 水前寺校で英検の級別教室があるようだ。KFLAでも取り組めないものか。

●生徒数が増加しているということで、このまま取り組みを続けてほしい。留学生に関してはコロナが落ち着かない事には動きが少ないと思うので、各国間の入国がスムーズになった時に備え、準備の必要があるか。またそれと同時にオンラインなど教室の時間貸しなどについてはもっと積極的にPRして良いと思う。折角の好立地を生かさない手はないと思う。

1 1. 法令遵守

●企業、団体の個人情報の流出などは定期的にニュースにもなっている為、引き続きそういった問題が発生しないようにしていただきたい。

●個人情報の取り扱いについては特に最近世間が関心のある部分なので強化する取り組みはとても良いと思う。

●申し分ありません。

●情報公開も十分できている。

1 2. 社会・地域貢献

●施設利用、講座の受講などを広く受け入れていることを積極的にPRしてもらいたい。学校は学生が利用する場所、というイメージが強く残っていると思うのでそのイメージを払拭し、利用、受講のハードルを下げる方法はないものか。とはいえ、在学中の生徒を守る意味でも外部の人間を制限なく受け入れるわけにもいかないと思うのでやはりバランスも大切か。

〇〇のようなことが出来る、という具体的な利用例を数例作ると利用を検討する側もイメージしやすいのではないか。

●学校の認知度を高める行事を採り入れていただきたい。

●高齢者が学生と一緒に参加されている授業もあるとのこと、とても良いことだと思いました。空き教室を活用し、英語を学びたい子供たちに学生ボランティアが英語指導するなどの場を作るのもいいのではないのでしょうか。

●学生が学校としてボランティアなどに協力できるといいですね。クリスマス時に炊き出し等参加しやすいボランティアもあるようです。

●コンテストの実施による認知度向上はできないのでしょうか。

●部屋のレンタルを通じて貢献できる、大いに活用してほしい。

●コロナが落ち着くまで目立った行動は行いにくいと思うが、オンラインの環境などを整え、地域での利用をしやすくするなど何か方法はないものか。Wi-Fi 環境の整備、コワーキングスペースとしての活用など引き続き検討してほしい。また現在一般の方が使える環境などの認知度を高める活動等も強化してほしい。

●地域貢献の観点から言えば、ターゲットを若者以外に絞った公開講座の実施、例えばリタイア後の高齢者を対象にした英会話講座等を検討されてもいいのではないのでしょうか。

13. 国際交流

●コロナの影響で入出国が制限され留学生の受け入れは難しいと思う。留学中の生徒に関しては帰国もままならずストレスを抱えている生徒もいると思うので生活や精神的なケアを気にしてほしい。

校内での日本人生徒と留学生との交流があまり見られないとの事だが、『同じ学校の生徒』という感覚をそれぞれが持っていないのか。同じ建物に居るだけの関係ない人たち、と思っているのか、と感じる。海外や観光に少なからず興味を持って入学した生徒や、海外での経験を求めて入学したであろう生徒にしては残念に思う。

留学生の交流に関しては、例えば他校の留学生との交流などは可能なのか。既に自身のコミュニティ等で同国の人間同士とはつながっていると思うが、海外で異国の留学生と交流する経験は貴重だと思う。海外に行くと同じ国の人間と一緒にいる方が楽なのは自分も経験があるが折角の貴重な機会なので様々な人種、人間と積極的にコミュニケーションをして欲しい。その為には学校側である程度場をセッティングしてあげることもありがたいのではないかな。

●留学中の生徒に関しては帰国もままならずストレスを抱えている生徒もいると思うので情報提供や生活、精神的なケアを心掛けてほしい。

海外への移動が難しい状況の中、引き続き校内で行える国際交流の促進を心掛けて欲しい。場所の提供や機会の提供など背中を押す程度で良いのでサポートをしてもらいたい。

●まずは校内での学生同士の交流促進に是非取り組んでいただければと思います。交流が活発化すれば語学学校として一つの魅力にもなるのではないのでしょうか。

●いよいよリアルな国際交流が難しくなってきた中で、オンラインなどを利用したリモート交流が主体になってくるのではないかな。設備や機会などを増やせばニーズはあると思う。またリアルな部分に関しては、英語での交流にはならないが学校内に居る外国の生徒達との交流の機会が身近でできる国際交流になるのではないかな。リアルで海外などに行く機会が無くなった現在、強みになる部分だと感じるし、日本人生徒、留学生両方にとっても有意義な事だと思う。

●なかなか文化の違い、言葉で生徒達にはうまくいかない点があると思います。しかしこういう場で交流できるのにお互いの文化、言語を学ばないのはすごくもったいない、メリットがない。

- 海外からの留学生の日本でのインターンシップは行われているのですか？卒業生の日本での就職への道が開かれると、留学生も増えるのでは。
- もっと日本、ベトナム、ネパール3か国が学校内にいるのに交流がないのはもったいない。学校側にもマイナスになるのでは？プラスになるように 交流を深めて、留学生を集めたいです。
- 県内の留学生とのふれあいなども語学力の向上につながると思います。
- 以前より学生同士の交流を促進していただきたいと提案していますが、留学生チューター制度のようなものは作れないでしょうか。まずは会話する機会を提供し、言葉や日常生活面でのフォローをしていく中で、交流も深まると思います。学校だけでは難しいきめ細やかなサポートも、学生同士の方が効果的な面もあるのではないのでしょうか。
- コスパの優れたフィリピンなども視野に入れると充実すると考えます。
- 留学生受け入れは、一番のメリットでもあると思います。日本でのインターンシップでの交流を深めて、校内での交流可能性とかもいいと思います。外部からの日本人と交流して、留学生にもっと日本の文化などを。